

# 日工販ニュースVol.22 No.07



## もくじ

第41回 通常総会	2
「会長就任挨拶」	長久保 敏 2
「議事録」	4
創立40周年記念行事	6
「記念式典」	6
「記念講演：構造変化の進む世界経済」	三菱商事(株) 藤山 知彦 9
「祝賀会」	15
私の読書評「日本の経済の真実～ある日、この国は破産します～」	
..... 東芝ファイナンス(株) 田中 健治	17
メーカーインタビュー	(株)ナガセインテグレックス 18
工作機械と私	浜松貿易(株) 丸 崇仁 22
議 事 録「中部地区正・副会員懇談会」「SE講座・更新研修講師打合せ会」	23
S E 教 育「SE教育基礎講座実施報告」「合格者」	25
統 計 資 料「FA流通動態調査1」「工作機械業種別受注額」	26
リレー随筆	ユアサ商事(株) 脇田 祥吾 28
営業マン日記「新商品トラック・キャラバンの巻」	29
消 息 ・ 行 事	30
会 員 会 社	32

# 第41回通常総会

開催：平成22年6月9日(水)

## 会長就任挨拶



---

日本工作機械販売協会 会長  
長久保 敏

---

第41回通常総会において、会長に選任されました長久保でございます。

大役を仰せつかり身の引き締まる思いでございます。

微力ではありますが、日工販発展のために最善を尽くしてまいりますので、会員各社の皆様には、柴田前会長同様に、引き続き変わらぬご指導とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、皆様のご記憶にも新しい、世界の経済活動を凍りつかせたリーマン・ショック、世界の金融システムを崩壊寸前に追い込んだリーマン・ショック、このショックが引き金となり、今日の世界経済は、20世紀型経済システムから21世紀型経済システムへ、また、大量消費経済から循環型経済へ、あるいは石油から自然エネルギーへと、新たな世界に、大きく変化せざるを得ない転換点に直面しております。

既に1年半が経過したものの足元の日本経済は、不幸にも政界のリーダーシップの欠如も重なり自動車業界をはじめ依然として低迷を続けております。

一方、世界のGDPは7年前には約3,500兆円でありましたが、昨年度は約5,000兆円に拡大しています。中国を筆頭に、東南アジア、インド、ブラジルなどの多人数国家・地域の需要はす

さまざま、これら新興国の成長が世界のGDP拡大の力強い牽引役となっています。

この間の日本のGDPは金額では約500兆円で変わらないものの、全世界との比率は14%から10%弱に低下しています。今や低迷する国内市場から、成長する世界市場へとグローバルな展開が日本企業に求められています。

工作機械業界においても、特にこの一年半の経過を迎れば内需は100億円から200億円の低レベルであります。外需は100億円から600億円へと急拡大しており、今後も益々外需の比重が高まることが予想されます。

しかしながら、このような環境においても、日本市場では『ものづくり日本』の復活をかけた次世代型の工作機械の開発が求められています。

世界的なCO<sub>2</sub>削減の動きから、環境に配慮したエネルギー消費の少ない、世界に先駆けた21世紀型の新たなエコタイプの生産システムを構築してゆかねばなりません。

よりシンプルで、よりスリムで、よりコンパクトな工作機械を作り上げ一刻も早く世に送り出さなければなりません。

そのためには、生産現場の生の声を素早く取り入れ、ユーザーとメーカーと商社が一体となり、迅速に実現しなければなりません。

このような時こそ、機動性と柔軟性に富み、広範な情報を最大限活用できる商社の活躍の場がまさに到来したものと考えております。

更に日本工作機械工業会並びに関係団体の方々とも情報交換を密に行い、外需への積極的な取り組みを図ると共に内需のこの大きな課題も克服して参りたいと考えておりますので引き続き関係各位のご指導とご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、会員各社の益々のご発展と関係者各位のご健勝とご活躍を心より祈念しております。

# 議事録

日 時：平成22年6月9日(水) 12:35 ~ 13:25

場 所：グランドアーク半蔵門 「富士の間・西」

## [ 議 事 ]

### 1. 開会 (12:35)

宇佐美専務理事が進行係となり、「総会次第」に従い議事を進めた。

### 2. 総会の成立

専務理事より「本日の出席者45社(60名) 有効な委任状提出19社、合計64社であり、現在の在籍正会員数は70社につきこの総会は定款の定めにより成立する。」旨報告した。

### 3. 会長の挨拶

柴田会長より、「会員各位のご協力をいただき只今から上程議案の審議をお願いいたします。」との開会の挨拶があった。

### 4. 議案の審議

定款第14条に従い柴田会長が議長に就き、第1号議案から第4号議案まで審議の結果、それぞれ次の通り承認された。

#### (1) 第1号議案 平成21年度事業報告並びに決算案承認の件

会長が事業報告書の「概要」を述べられた。

専務理事が「決算報告書」を説明した。

議案の審議に先立ち議長は監事に対し監査結果の報告を求めた。

監事を代表して下野監事から「平成21年度の収支計算書、貸借対照表、諸帳簿、証憑を監査した結果、適正であることを認める」旨報告があった。

議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。



## (2) 第2号議案 平成22年度事業計画案並びに予算案承認の件

議長が事業計画案を提示、専務理事から予算案について説明した。

事業計画では基本方針に基づき、平成21年度事業の概要を引き継ぐとともに、各行事の継続実施と充実を図る。一般会計予算は、厳しい経済不況下における対応として2月に郵便による持ち回り臨時総会を行い、22年度会費徴収額を半額とすることが承認され、会費収入減のため本年度も収支差額は大幅マイナスとなる。教育事業特別会計は、受講者見込みを基礎講座・更新研修を減とし受講料を主とする収入総額の減少により、収支差額はマイナスとなる。

議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

## (3) 第3号議案 会長承認の件

議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

## (4) 第4号議案 定款一部改訂の件

議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

以上で議案審議は終了し、議案は全て承認された。

## 5. 議長挨拶

議長は、以上をもって全議案の審議が終了したことを告げるとともに、出席者の協力に対し謝辞を述べた。(13:17)

## 6. 会長表彰

表彰・感謝状贈呈基準により、柴田会長より10年間理事、委員を務めた伊吹産業(株)取締役社長 横幕武夫氏、カトー機械(株)取締役社長 加藤幸博氏(当日ご欠席)、日本GE(株)首都圏営業第5本部本部長 福島 透氏の3氏に表彰盾が授与された。



## 7. 新旧会長挨拶

## (1) 柴田前会長退任の挨拶

議案審議後、柴田前会長より、1年間の在任期間における会員各位のご支援とご協力に対して謝辞が述べられた。



挨拶される柴田前会長

## (2) 長久保新会長就任の挨拶

引き続き長久保新会長より、会員各位のご支援を受け、協会の更なる発展に尽力する旨挨拶された。

## 8. 閉会

宇佐美専務理事より、閉会を宣し通常総会を終了した。(13:25)

# 創立40周年記念行事

開催：平成22年6月9日(水)

去る6月9日(水)第41回通常総会終了後、グランドアーク半蔵門にて日工販創立40周年記念行事、記念式典、記念講演会、祝賀会が開催されました。当日はあいにくの小雨模様でしたが、関係官庁、業界団体から多数の来賓、報道関係者に加え、歴代の会長、副会長のご臨席を得て、次第(右)により滞りなく執り行なわれました。ここにその概要を報告します。

## 記念式典

式典は「富士の間・東」141名の出席のもと、宇佐美専務理事の司会で進められました。式典前開催の第41回通常総会で第16代柴田實会長が退任し、第17代会長に長久保敏氏が就任した報告がありました。長久保会長より、臨席各位への謝辞と挨拶がありました。

更に、日工販40年の歩みの中での亡き会員の偉業に敬意を表する黙禱が奉げられました。

当日は、経済産業省製造産業局産業機械課米村猛課長より日工販40周年へのお祝いのお言葉に引き続き(社)日本工作機械工業会中村健一会長よりご祝辞をいただきました。



司会の宇佐美専務理事



長久保会長挨拶

日工販創立40周年記念行事次第			
<b>式典</b> 13:50~14:40 4階「富士の間・東」			
1. 開会の辞	日工販専務理事	宇佐美	浩
2. 会長挨拶	日工販会長	長久保	敏
3. 物産者慰霊黙禱			
4. 来賓代表祝辞	経済産業省製造産業局産業機械課課長 (社)日本工作機械工業会会長	米村	猛
		中村	健
5. 表彰状授与		植田	精
6. 表彰者代表謝辞		宇佐美	浩
7. 閉会の辞	日工販専務理事	宇佐美	浩
	日工販専務理事	宇佐美	浩
<b>講演会</b> 15:00~16:10 3階「華の間」			
1. 講師紹介	日工販副会長	富田	薫
講師	三菱商事株式会社執行役員コーポレート担当役員補佐(企画担当)	藤山	知彦
演題	「構造変化の進む世界経済」		
2. 謝辞	日工販副会長	富田	薫
<b>祝賀会</b> 16:30~18:00 4階「富士の間・東」			
1. 挨拶	日工販会長	長久保	敏
2. 乾杯	日本工作機械輸入協会会長	千葉	雄三
3. 中締め	日工販副会長	後藤	正憲
	日工販専務理事	宇佐美	浩

### 長久保会長挨拶要旨：

通常総会での会長拝命を報告。日工販が1970年に設立され、これまで多くのことが起きたが、諸先輩が関係各位の英知を集め、皆様のご協力・ご支援をいただき努力を重ねて幾多の難局を乗り越えてこられたおかげで40周年を迎えられたことへの謝辞。日本の工作機械業界は1982年には生産量で世界第1位になり以来約30年間にわたって1位の座をキープしてきたが、リーマン・ショックを期に中国に抜かれ、工作機械業界そして日本のものづくりは復活にかけて成長していかなければならない。日工販は全国の販売組織で40年間発展して業界への貢献をしてきたことは誇りに思う。

本日は誠に光栄な事で業界の発展に功績のありました6名の方が経済産業省製造産業局局長表彰を賜わりお礼があった。今後も日工販は新たな日本経済発展のため、日本工作機械業界の復活のために更なる貢献をしていきたいと思っている。日工会をはじめとし関係団体の皆様とともに50年、60年と年齢を重ねてまいりたいと思うので引き続きご支援、ご協力を賜わるようお願い申し上げます。

## 米村課長祝辞要旨：

日工販は高度経済成長期の1970年に設立され、当時、普及が始まったNC工作機械販売に積極的に取り組み工作機械の普及に尽力し、わが国製造業の振興と工作機械産業の健全な発展に多大な努力と貢献への敬意が表された。

一昨年の米国発の金融危機に端を発し景気後退により需要が大きく落ち込み厳しい状況にあったが、現在は着実に持ち直しの傾向だが国内需要の回復は油断のならない状況が続き低水準で、経済産業省としては昨年以來、景気対策、経済対策等の緊急対策の実施に引き続き万全を期したい。

また、産業構造ビジョン2010というものを発表し、環境エネルギー分野・先端分野のロボット・航空機等の戦略5分野を決め、これを核にして2020年までに新たに150兆円の産業を作るという気構えで、ものづくり環境整備、人材育成、法人税の引き下げ等、ものづくり日本としてどういう事ができるのかを政策として実証していきたい。

引き続きユーザーニーズにあった工作機械提供をしていただくことを強く期待したい。また、平成3年からセールスエンジニア教育制度を策定され教育講座を毎年開催され、この人材育成も産業構造ビジョン2010の思想と主旨を同じにするものであり、こうした取り組みも引き続きお願いしたい。

日工販は日本の産業界全体の発展、日本経済の全体の発展に向け活動を充実していただき、これが日本経済、世界経済のためになり、私もバックアップしていくので引き続きご健闘をお祈りしたい。

最後に、日工販創立40周年を契機とし更なる飛躍を遂げ、会員各位の益々のご発展を祈念します。



経済産業省 米村課長



日工会 中村会長

## 中村会長祝辞要旨：

40年前の昭和45年は工作機械業界にとって大変重要な年でした。

工作機械生産高が3,000億円となった事とNC工作機械の幕開けという重要な年に日工販が創立された。日工販と製造はまさに製販一体でやってきました。

一昨年のリーマン・ショック以降21年間守り続けてきた生産高世界1位は残念ながら中国に奪われドイツにも抜かれましたが、生産高世界1位の中国は別世界として、ドイツに負けないという思いです。

昨年は大変厳しい年でしたが今年に入り1月の500億円台の受注高から徐々に増え、4月・5月と800億円台が続き、800億円台が現状に近いという感じですが、やはり内需がまだ一つ。内需は納入先が国内だけをとらえており海外工場に持っていく場合は内需から外需に変わり、空洞化が結構来ています。

日本の国力はものづくりが支えていかなければならず、その中で工作機械業界の使命は大変強いものがある。

何としても技術は世界1、生産高はドイツには絶対に負けないということで、皆様方とともに日本のものづくりを支えていく工作機械業界として一緒に頑張っていきたい。

日工販の更なる発展、繁栄を祈念します。



祝辞に引き続き、経済産業省製造産業局長表彰状が米村課長から、下記の方々に授与されました。

経済産業省製造産業局長表彰(6名)以下敬称略

三井物産マシントック(株) 元取締役社長

白坂文雄

植田機械(株) 取締役会長

植田精一

(株)トミタ 取締役社長

富田 薫

三栄商事(株) 取締役社長

後藤正憲

(株)兼松K G K 元取締役会長

石川正治

伊藤忠マシントクノス(株) 取締役会長

尾瀬俊憲



経済産業省製造産業局長表彰



経済産業省 米村課長を囲んで

植田副会長謝辞要旨：

授与された方々を代表し植田副会長より謝辞があった。日工販設立以来、幾多の困難があったが今日の日工販へと導いていただいた先輩諸氏に敬意を払いたい。教育事業活動に於ける2,400人以上のSE資格取得者による業界での活躍そして各委員会活動が業界発展に貢献し、日工販は成長してきたと自負している。経済産業省・関係団体様のご支援ご協力を得て、日工販

はこれからも工作機械業界を牽引し機能を発揮し存在価値を高めていくと挨拶があった。

最後に専務理事より、閉会の辞があり閉会となりました。



植田副会長謝辞



記 念 講 演

『構造変化の進む世界経済』

講師：藤山知彦 氏 三菱商事(株)執行役員コーポレート担当役員補佐(企画担当)

日工販創立40周年記念式典に引き続き15時より「華の間」にて約1時間にわたり記念講演会が180名の参加者を迎え開催されました。富田総務委員長から講師が紹介され藤山講師より豊富なデータを駆使して私達が関心を持っている大きく変化する世界経済について大変分かり易い内容で講演がありました。

当日藤山講師の講演に参加できなかった会員の皆様に講演要旨を紹介致します。



始めに：

リーマン・ショック以降の世界を私ども三菱商事(株)がどのように見てきたか、あるいは見ているかを率直にお話ししたいと思いますのでマクロな内容は経営トップに説明しているものとほぼ同じ内容をお話ししたいと思います。

これは情報を提供するという事ではなくてむしろ解釈を提供するという事です。情報というのは世界中にあふれておりこれはインターネットの世界であればどんな人もアクセス出来るということですが、これをインフォメーションといいます。一方インテリジェンスというのはその組織にとって有用な情報を加工して解釈をつけて提供するという事で、本日はなるべくインテリジェンスを提供するという気持ちでお話ししたいと思います。

世界経済の現状：

2009年全世界の名目GDPは57.9兆ドルで、約60兆ドルと言うのが世界の経済規模です。このうちEUが28%、アメリカが25%、BRICsが15%、日本が9%これで75%以上と

講師略歴：

1975年東京大学経済学部卒、三菱商事(株)入社。

調査、業務、企画部門を担当し2000年戦略研究所長就任、2008年執行役員国際戦略研究所長就任、2010年執行役員コーポレート担当役員補佐(企画担当)就任。

日本経済新聞「十字路」コラムニスト。

なります。為替の関係がありますが同時多発テロ時のアメリカは33%でした。と言う事は世界の1/3がアメリカであったが、わずか9年で1/4に縮小してしまいました。日本は1995年に世界経済の16%でしたが今は9%弱なので半分くらいに縮小していました。今年日本のGDPは世界で第3位に転落し中国は日本を抜いていくことになると言われていました。

#### 為 替 :

アメリカ発の金融危機であったのですが、この間はドルの需要が非常に高かった。日本の新聞は円高ドル安とだけ言っていますが、確かに円はドルに対して高かったのですが、ドルに対して高かったのは円だけであって他の全ての通貨に対してドルは高かった。これを大きく勘違いして円・ドルだけ睨んでいると輸出は大丈夫なのか考えてしまいますが実はそうではなかったという事がわかります。

— 昨年のリーマン・ショックから今年の3月まで円高、ドル安ですが、ドルを他の通貨でみるとリーマン・ショック後全部ドル高となっています。韓国ウォンは4割位安くなっており家電、電池などの入札があって世界中で韓国がマーケットシェアを増やした時です。実はこの時期にシェアを増やした韓国企業はウォン高になってきたのでマーケットを維持できなくなってきた企業が出てきています。

気絶期(2008年9月~2009年3月)から  
リハビリ期(2009年4月~12月):

使うことも作ることも止めて呆然としていた気絶期からリハビリ期に移行できたのは景気刺激策と経済危機の対応策でしたが、先進国と中国の政府が実施した数字を足していくと私たちの計算では6兆ドルになります。先ほど世界のGDPが60兆ドルと話しましたが、この期間に

政府が放出したかあるいは宣言した金額がいかに大きなものかが分かりますが、このくらいやって漸く資産の下落が止まりリハビリ期に移行したのです。気絶して倒れた人に水をかけ気つけ薬を嗅がせたのですがすぐ元気に外へ出られるという状態ではなく一般病棟に移るという状態になってきました。商品相場が回復してきてドル需要が収まってきて他の通貨が盛り返してきてドルが相対的に安くなってきました。ものすごく落ちた生産が底を打って少しだけ上がってきました。

構造変化期(本格回復前)  
(2010年~2012年):

実際の構造変化はすごい勢いで進んでおり世界の消費の構造が変化します。金融制度が改革されて金融が今までと同じような形で動かなくなるかもしれません。

実は今でも金融制度の改革がどこまで行われるか分かっていません。工作機械で言えばどのような仕様の工作機械がこれから必要となるかという本質的な問題に議論が移って行く、車であれば大型のガソリン車の設備はどんどんスクラップになっていってEVであるとかあるいはハイブリッドという車が出来てくる。ご存知の通り世界で7千万台以上の車の生産能力がありましたが、4割は一時止まりました。今2割くらい戻していますが残りの2割が戻って居らずそのうちのほとんどがスクラップになるべき運命の工場です。これらはほとんど新しい需要に対応しないと工場として復活して行かないということがあり環境対応であり、新エネルギー対応であるということが起きています。

需要のタイプが前と変わらないと戻りません。需要のタイプが前と同じで同じ数量が出てくるということは世界経済ではありません。どの業界でも多かれ少なかれ2008年以前の姿に

早く戻りたい同じような商品で早く戻りたいと経営テーマを設定したらそれはアウトです。何割が変わる構造変化部分にどう手を打つかが企業経営の核心になる訳です。世界経済の本格的回復については2012年以降で安定的な成長速度は3~4%程度とみています。

#### ギリシャ財政危機：

非常に難しい話で、世界で起きていることは何かというとマーケットフリーにしていたらマーケットがより高いレバレッジを求めているお金によってかく乱されて、しかも選ばれたと言われている顧客に向けて投資の仕方を教えていった人々が間違えてこのような事態になってしまっており、この事態に対して政府の金が出動したので漸く形が保てられる状態です。

ところが今度のギリシャ危機というのは政府の金を使い過ぎているから政府そのものに対する信任、即ち政府がマーケットで信任を受けているということなのです。話がぐるりと回って上部構造である政府が下部構造であるマーケットに対して支援をしてきたら、今度はやり過ぎだとマーケットから言われておりかなり混沌に近い状態になってきています。EUのギリシャ問題の解決の仕方がうまくいくかいかにかんよってもう一度この時点に逆戻りという危険を現在らはらんでいると思います。ただサブプライムローンの時と違うのは新しい金融商品の中にサブプライムローンのような毒まんじゅうが入っているということではありません。

今回は、政府の危機なのでこの財政の危機というものを上部概念であるEUがきっちりと規律をもってコントロールすると言っているのです、取りあえずそれを信じるということになります。

しかし今一番心配しておいて欲しいのはギリシャ危機で場合によっては、違うタイプのリー

マン・ショック即ちギリシャショックという金融危機のやり直しという場面が起こり得ないとも限らないと思われます。

#### IMFによる世界経済の見通し：

先進国の経済成長率は2015年までそれほど伸びないで2%程度でBRICsについては中国頼みという事はありますが今後5年間8%を超える高成長が見込まれます。中国は年末か来年ぐらいから減速し始めると思いますが、減速しても大丈夫なぐらいのパワーを持っています。国内の貧しい人々へのお金の配分システムが問題であって、それさえうまくやれば中国は5%成長でも十分に世界に貢献出来るし中国の国内もうまくやっているといます。ただ8%成長をずっと続けるのはもう無理と思います。

#### 株価と国際商品市況：

まず株価ですが、リーマン・ショック後世界の株価は全て資産デフレで急速に落ち込みましたが昨年3月より急速に上昇しています。これは先程言いました6兆ドルの金を撒くあるいは撒くと宣言したからです。国際商品市況も同様にリーマン・ショック後急速に落ちたが2月あるいは3月より急速に上昇しています。

#### アメリカ経済：

まだリーマン・ショック前の状態までには戻っていませんが、所得減税政策や自動車買い替え支援策に支えられ、足元では個人消費が持ち直しています。雇用者数は下げ止まりつつあり、雇用環境も最悪期は過ぎたと見られます。小売売上高については直近のピークとなった2007年10~12月期と比べて2009年1~3月期は90%まで落ち込みましたが、2010年1~3月期には95%にまで持ち直してきています。

## アメリカの政策の動向：

アメリカがどういう事をしようかとしているかと言いますと当然ながら輸出を倍増しようとしており詳細は今秋発表予定です。構造改革で一番の見どころはここです。デリバティブ取引、格付機関への監視強化を盛り込んだ銀行による自己勘定取引、ヘッジファンド投資など禁止、銀行の大規模化を阻止する金融規制改革法案がどうなっていくのか、特に今商業銀行で集めたお金を高いレバレッジを使った方向に投資していくのがなかなか難しくなっています。レバレッジの倍率が減っていき恐らく身動きできない状況になる可能性があります。ただ年金資金はどうしても運用しなければなりませんので市場を全く駄目にするような規制はいくらアメリカといえども出来ません。ですから金融改革法案がどの程度までいくのが重要な問題です。今ドルが右肩下がり落ちてきていますが、このまま行くと金融危機があってアメリカの生産力が落ち、世界中に経常赤字を垂れ流したつげとしてドルがたまっていきますので普通の頭で考えますとドルが安くなってきます。ところがユーロが問題含みとなっており必ずしもドル安になるとは言えなくなって

きています。多分間違いないのは新興国ブラジル、インド、中国の通貨に対しては切り上げ圧力がさらに強くなってくると思います。

## 欧州経済：

欧州経済は、消費・設備投資共に伸び悩み、先進国の中でも最も回復力を欠いており、中でも財政不安が顕在化した南欧諸国の経済環境が厳しい。今後もギリシャ問題に端を発した金融不安の行方次第で更なる景気の下ぶれリスクも抱えています。そもそもプロの間で言われていたのはアメリカの場合では国の法律が一つで銀行の不良債権の中身が全部見えていました。ところがEUの銀行では不良債権の比率すら分からないことで、今でも分らないのです。ですからそれをどう考えるかが非常に重要な問題で、EUの方はデータの始末が悪くどのように解釈して良いかわからない問題が沢山あります。次のターゲットと言われているスペインの失業率がダントツに上がっています。

## 欧州経済におけるギリシャ問題：

各国の経済政策が一体化していない中、通貨統合を急いだことにより構造的な問題で金融政



策を持たないユーロ圏諸国は、自国の景気調整を図るために財政により経済刺激策をとりEU財政収斂基準を違反し易い状況にあります。普通の国は財政、金融（金利）、通貨の変動という三つの武器がありますが、EUでは通貨を統一しましたので通貨と言う武器を渡してしまい、更に金利もEU全体で規制される訳で自分が出来る事は財政しかないのですが財政もGDP比で財政の赤字を出し過ぎるとEUに入れてもらえません。

それではどうしたら良いのかという国が必ず出てきます。EUを統合した時には、非常に勤勉な東欧諸国例えばチェコ、ポーランドといった国は仕事がないので労働集約的な仕事をこうした国へまわすことによってフランス、ドイツなど大国を労働力が手に入りチェコ、ポーランドは雇用が手に入って先進技術を学ぶことが出来たというWIN、WIN関係がEUの中で出来てきたのですが、そのまわりのちょっとさぼっている国は今回のような問題が露呈するようになってきました。EUに後から入っていった国はそれほど幸せではない国が多くEU統合の負の面がすこしずつ現われてきています。これもアメリカ発の金融危機をかぶったということから始まって銀行は想像以上に傷んでいます。競争力の異なる国の共通通貨となったユーロは、導入から10年で競争力のあるドイツ、フランスにとっては割安な通貨となり、ギリシャをはじめとする競争力のない国にとっては割高な通貨となっています。

#### 欧州経済におけるギリシャ問題：

ギリシャ問題だけであればEUとIMFで力づくでも何とかするというシナリオは書けるのですが、スペインとかイタリアといった国がギリシャのような状況になってくると世界金融システムに波及する問題となり信用収縮は欧州全土に及ぶこととなります。ユーロ圏の債務残高状

況を見てみるとスペインの国債市場規模はギリシャの2倍以上の規模でありスペイン財政の不安が本格化した場合の金融市場に与える影響はギリシャの混乱を大きく上回るようになります。

#### 中国経済：

中国のGDP構成比というのは、昔個人消費が6～7割占めていました。貧しいからまだ3割というのは最近の話です。何故かと言うとこの10年は輸出で生きてきた。経済の規模が小さい時は個人消費です。今現在は輸出の力がなくなって輸出先の景気が悪いのと中国といえども輸出競争力がだんだん無くなってきたということもあります。

もう一つは人口ボーナスというのがあります。これは労働適格年齢の人口が総人口の伸び率よりも高い事をいいますが、日本は1990年に終わった。

1999年までは1990年までの経済政策はほとんど何をやってもうまく行った。韓国と中国は今年期を同じくして人口ボーナス期は終わります。インドとブラジルはこれから人口ボーナスをエンジョイするので強いのです。中国は意外にこれがネックで一人っ子政策が効いてきたというところがあります。今20歳から35歳までの人口と35歳から50歳までの人口と比べると35歳から50歳までの人口が最早多いのです。特に固定資本形成これはどんどん地方に工場を作っている。世界経済の21世紀前半を引っ張ってきたのはアメリカの過剰消費と中国の過剰投資なのです。資源の価格が上昇してきたのは固定資本形成が伸びてきたことに原因があります。中国で作られた製品に国際競争力があるかどうかは疑問で、本当にこのまま中国が作り続けることが出来るかというのも疑問です。日本よりずっと作り続ける力はありますが今まで通りいけるかは疑問です。

## 中国の為替政策：

恐らくいろいろな意味を含めて中国は元の切り上げを内心決断しつつあるのではないかと考えてます。輸出競争力を失うから困ると商務部は盛んに国務院にレポートをあげています。その通りですが、もう一つはインフレの問題があります。元を上げて行けばホットマネーの流入ということはあるにせよ全体的にはインフレを下げて行く力があるので元を上げて行くという可能性は高い。

また元を高く上げて行けば中国経済の規模が世界の中で大きくなる。元が高くなれば資源をより多く買えます。そして技術も買える。いよいよ今中国はR&Dネックの時代に入っています。R&Dネックというのは企業の中でR&D部門を抱えていない事です。中国に行ってR&D担当役員と名刺交換すると、ほぼ全員がM&Aのプロです。彼等にとってR&Dとは外国の技術を安く買ってくるのがR&Dなのです。

ところがインドではR&D担当役員と名刺交換すると理学部、工学部出身のドクターでどちらかと言うと浮世離れた人たちでこれも私達が言うR&Dと少し違うなと思います。日本は唯一アジアの中では少なくとも商品レベルにおけるR&Dを成功させ続けてきた国なのでこの点自信を持たなければいけない事で後の国は韓国を含めて全部真似です。

中国は人民元の問題を、技術をもっと買うという判断に出てくると思います。

## 日本経済：

どちらかと言うと外需に支えられて何とか、よたよたなりとも上がってきました。日本経済そのものに関しては、二番底はあまり考え難い状況になっていますが、一番怖いのは金融です。世界の中で日本が不当に軽く見られてくると外国人投資家が引き揚げていくことにより株

価が落ちていきますのでそのような事が怖い。工作機械の関係で言いますと、中国ではユーロが安くなったのでドイツの工作機械が伸びていると聞きます。もともと中国のドイツ製機械への信仰というものがありましたし、更にドイツは中国への技術移転については寛容であると言っています。

## 日本の設備投資：

設備投資が出ていないということが問題ですが、先程述べました構造変化をやるには絶対に設備投資が必要です。どちらの方向に何の構造変化が起きるのかということ果敢に読んで相当の大きな企業が勝負をして設備投資をしなければ今はいけない時期です。十分に日本は出来る背景を持っているし、技術的バックグラウンドもあるけれど怖がって設備投資をやっていないというのが今の現状です。

それから雇用のところで今の30代後半の傷ついた世代があってこの世代をまだ救いきれていないことを中心に、企業と雇用(労働者、生活者)と政治の三角形の信頼関係が出来ていないところが一番ひびいていて、もちろん少子高齢化もひびいてないことはないのですが、それよりはこのトライアングルの信用失墜によって勝負的な設備投資をしようとしめない企業が多くなってきたという事が関係していると私は思います。ですから商社的に言うと大きな企業に勝負的な設備投資を促すのは大変な事です、世界シェアを持っている技術優位的なニッチトップである企業を応援して行くことがこれから重要であると思います。



富田副会長による謝辞

# 祝賀会

記念講演に引き続き会場を4階の「富士の間・東」に移し、日工販創立40周年祝賀会が華々しく催されました。会場は長久保会長を始めとする日工販役員に迎えられ、来賓、報道関係者、会員等211名の来場者で、賑やかに創立40周年を祝い、歓談が繰り広げられました。祝賀会は宇佐美専務理事の司会で進められ、長久保会長より挨拶がありました。

## 長久保会長挨拶要旨：

大役を仰せつかり身の引き締まる思いです。

会長として微力ながら日工販発展のために最善を尽くしますので柴田前会長同様に引き続き変わらぬご指導・ご支援を賜るようお願い致します。経済においては、リーマン・ショックから未だに世界経済の金融システムを不安におとし入れています。このショックが契機となって今日の世界経済を従来の20世紀型経済システムから21世紀型経済システムへ、また大量消費の経済から循環型経済へ、あるいは石油から自然エネルギーへと新たな世界へ大きく変化せざるを得ない転換点に直面していると思います。

工作機械業界では低迷する日本市場ではものづくり日本の復活をかけた次世代型の工作機械の開発が求められていると思います。各社は環



挨拶される長久保会長



お出迎え

境経営を目指していますので、環境に配慮したエネルギー消費の少ない世界に先駆けた21世紀型の新たなエコタイプの生産システムこれを構築していかないといけないと思います。よりシンプルで、よりスリムで、よりコンパクトな工作機械を作りあげ、一刻も早く世に送り出さなければいけないと思います。この問題解決のためには生産現場の生の声をすばやく取り入れユーザーとメーカーと商社が一体となって迅速に対応しなければいけません。このような時こそ機動性と柔軟性に富み、広範な情報を最大限活用できる商社の活躍の場がまさに到来したと考えています。

そして日工会並びに関係団体の方々と情報交換を密に行い、内需の大きな課題を克服したいと考えています。引き続き関係各位のご指導とご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い致します。

最後になりますが、会員各社の益々のご発展と関係各位のご健勝とご活躍を祈念します。

会長挨拶の後、司会の宇佐美専務理事より先の式典において経済産業省製造産業局平工奉文局長表彰が授与されました6名の皆様の報告がありました。

## 40周年 祝賀会

また、記念式典にてご来賓を代表し経済産業省製造産業局産業機械課課長米村猛様、(社)日本工作機械工業会会長中村健一様より丁寧なご祝辞を賜った事を司会より報告がありました。

来賓の日本工作機械輸入協会会長千葉雄三様より、創立40周年へのお祝いのお言葉をいただき、不景気もようやく底を打ち、皆様がもっともっと元気になって、次の50周年を元気にお迎えることができると、ご参集の皆様のご健勝ご発展を祈念し、乾杯の音頭をとられました。



輸入協会千葉会長

乾杯の後、賑々しく歓談が繰り広げられました。

宴たけなわの中、定刻になり後藤副会長より、日工販40周年のお祝をいただいたお礼があり、これからも右肩上がりを保つために一本締め後に右肩をキュッと上げるとのことで、次の50周年に向け今後の繁栄とご出席者一同のご健勝を祈念し一本締めの後、右肩を「キュッ」と上げて中締めを行い、散会となりました。



後藤副会長による中締め



歓談風景



乾杯風景

## 『日本経済の真実 ~ある日、この国は破産します~』

辛坊治郎、辛坊正記 著（幻冬舎）



東芝ファイナンス㈱  
第2法人営業部機械設備グループ主任  
田中健治

数年前、トヨタが純利益：1兆円という空前の利益を生み出し、いつまでも続くと思われていた戦後最長の好景気の間でさえ、生活が豊かになったと言う実感を余り持てなかったのはなぜでしょうか？

また、これまでのモノを作れば売れた時代から個人が蓄え続けてきた1,400兆円と言われる個人金融資産があるにもかかわらず、880兆円に達する政府の借金（内、国債残高：720兆円）つまりは赤ちゃんからお年寄りまで全ての国民一人ひとりが560万円の国債による借金を背負っている状況。GDPの1.7倍といわれる政府の借金はなぜここまで膨れ上がってしまったのか？（ギリシャ政府でさえ1.1倍です。）

本書は、日本経済・財政がここまでの窮地に陥った原因、課題を、経済の基礎知識と共に分かりやすく解説するとともに、読者に対して、これまでにない道を切り開く為にも果敢にチャレンジしていこう！とエールを送っています。著者は、読売テレビ解説委員長で、日本テレビのズームイン朝の元出演者としても有名な辛坊治郎氏と日本総研情報サービス代表取締役専務で辛坊治郎氏の兄でもある辛坊正記氏です。

国民の生活の豊さをはかるにはGDPの成長率が最も適切であると筆者は説いています。しかし、日本のGDPは1990年代からほとんど成長しておらず、名目GDPにいたっては横ばいからマイナス成長している状況にあります。

世界に名だたる日本メーカー各社は先をこぞって海外に工場を建設し、海外生産比率を高めています。安い人件費で生産し、為替リスクをヘッジするのは世界競争力を高める為には必要な事でしょう。また、一方で、高い法人税率が障壁となり日本に生産拠点を持たず外国企業は皆無であり、その結果、日本国内産業の空洞化が進行してしまっている為、GDPの成長は低位でとどまっているのです。

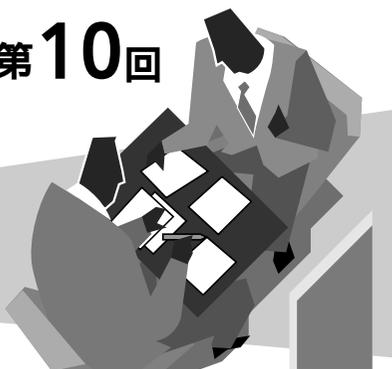
財政状況につきましては冒頭でも触れましたが、我々は560万円の国債による借金を背負っています。しかし、みなさんの中でこれだけの国債を購入した記憶をお持ちの方がいらっしゃるのでしょうか？

貯蓄性向が高い日本においては、国民は銀行に貯金し、銀行がそのお金を運用するといった間接金融が盛んに行われております。つまり、この間接金融により、銀行等が国債を購入する事により、国民は購入したつもりの無い国債を購入した事になっているのです。しかし、政府が国債発行によって得た資金を効率的に、国内の成長産業へ投資していけば、GDPの成長を促し、税収が増え、借金も返済していく事が出来るのですから、これまでの様な無駄な公共事業を行っていないか、国民はよく監視しておかなければならないのです。蓮舂さんにも頑張って欲しいものです。

我々リース業界においても、長引く不況、リース会計基準の変更等により、リースに対する需要は縮小傾向にあり、前年比20%以上での取扱高減少という厳しい状況が続いております。そんな中において生き残っていく為には、お客様のニーズに合った、これまでにないサービス、付加価値を持った商品を開発し、提供していく事が肝要ではないかと思うのです。

# メーカーインタビュー 第10回

## メーカーに聴く プロのこだわり!



**(株)ナガセインテグレックス** (本社・岐阜県関市)

### 「ナガセの常識は、業界の非常識」をテーマに、 新しい概念による新しい価値を提案。

「メーカーインタビュー」第10回は、「ナノメートル (nm = 10億分の1メートル) レベルの世界最高精度といわれる精密加工技術を誇る株式会社ナガセインテグレックス。“究極のゼロ”へ挑む超精密微細加工機「インテリジェントセンター」や超2精密形状創成加工機「ナノセンター」などの製品で産業界の期待に応える一方、最近はその技術を天文分野にも広げて一般の注目を浴びている。同社は、どのような技術開発の思想を持ち、製品化を進めているのだろうか。長瀬幸泰代表取締役社長に伺った。

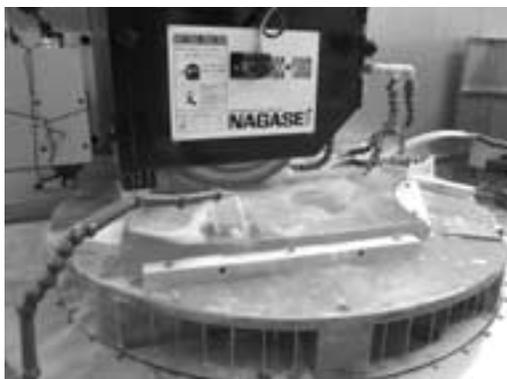


長瀬幸泰社長

挑戦の連続、1番と思ったことはない...

“ナノテクノロジー”という言葉は、その普及とともに安易に使われている場合も見受けられるが、ナガセインテグレックスにおいての「ナノテク」は正真正銘の世界だ。「インテリジェントセンターNICシリーズ」は最小分解能1nm(0.001 $\mu$ m)を誇り、導光板の金型、反射ミラー、軸対称/非対称の球面・非球面レンズ、超精度プリズム加工など、光学部品加工や自由曲面形状の微細加工に威力を発揮している。「ナノセンターN2C-Uシリーズ」の最小分解能は、レギュラータイプで10nm、プレジジョンタイプで1nm。限りなくゼロに近い加工精度を追求可能なマシンとして砥石加工・固定バイト加工・フライカッター加工・機上ラップ等の複合加工に対応する。

昨年6月に開発した「ワークおよびツール、砥石の自動交換機能付き超精密門型研削盤ORIGIN-5025」について、長瀬幸泰社長は「この機種の開発は約30年前に遡るのですが、社内の大物部品加工の高精度化の要求に伴って独自の多面拘束油静圧案内を採用した門型研削盤ORIGIN-6020を自社開発し、自社に設置しました。その後各社様よりオファーを頂きましたが、大型機ですので、最低でも10年は社内で使用して、問題点の洗い出しができるまでは外販をしないという方針で使用し続けました。開発からさらに約10年後、フラットパネルディスプレイの大型化や高集積半導体基板の大型化などに対応できる超精密大型加工機を実現して欲しいという要請が当社に持ち込まれ、これに応じてこの10年間の間に外販用門型超精密加工機ORIGIN-12025など14機種を開発しました。これらの機種に計測と加工の自動化



超2精密形状創成加工機「ナノセンター」N2C-Uシリーズ



超精密門型研削盤ORIGIN-5025

を盛り込んだのが今回の5025です」と説明する。

これらは、最高レベルの精度や機能をリードする製品といえるが、長瀬社長は「今まで当社が1番と思ったことはありません。知れば知るほど分からないことが出てくるもので、今でも挑戦の連続です」と謙虚だ。「とてつもない発明や技術革新を追い求めるのではなく、原理原則に忠実な“当たり前”なことを実行しているだけです。しかし、古い常識にとらわれることなく、ものの見方や考え方の切り口を変えることで、新しい価値のある商品を生み出すことが出来ると考えています」と強調する。

#### 価格重視路線から「世界一」を目指して180°転換

では同社は、これまでどのような技術開発の歴史を歩んできたのだろうか。長瀬社長は「創業者の“創意工夫”が今日まで続いています」という。「1950年に長瀬登(幸泰氏の父)が個人会社を始めたのが当社の創業の年です。当初は独創的なデザインの卓上パイサや縦横両用帯鋸盤などを開発して工作機械業界に参入しました。58年に(株)長瀬鉄工所となりましたが折からの好景気で、ある商社さんから“独立間もない金型屋さんでも買える安価な研磨機を開発してくれないか”と依頼されたのですが、これが砥粒加工機への参入のきっかけとなり、今日の当社へと繋がっています」と説明する。

1950年代から60年代は「作れば売れる」時代で、「機種を限定して大量見込み生産することで低価格を実現していました」とのことだが、73年の第一次オイルショックを迎え、状況は一変した。「ここから7年間、“模索”の時代を迎えることとなりました」。

この模索期に、同社は“創意工夫”の精神で工作機械以外でもフィッシュミールプラントなどの産業機械を次々と開発していたが、一方、大手メーカーは労働コストが安い海外生産などでコストを下げてシェアを伸ばしており、同社のプライスコンセプト(価格重視)に黄色信号が灯り始めていた。「そこで1980年代に入って、当社はマシンの開発コンセプトを180度転換しました。これは、“第2の創業”ともいべきものです」と語る。

第2の創業とは「ヨーロッパの機械よりいいものを作ること」だったという。「1980年当時、工作機械といえばヨーロッパ製といわれましたが、これより高精度・高機能の世界一のマシンを開発したい。しかし、それにはヨーロッパと同じことをしていたのでは超えられません。そこで、ヨーロッパでは採用されていない機構や構造を求めて、海外や日本の大学などを訪問しました」とのこと。そして開発に力を入れたのが非接触油静圧摺動構造で、この構造は86年に発表した超精密成形平面研削盤などに生かされている。しかし一方、同社の新しい技術や製品への風当たりは強かったという。「当社としてみれば、原

理・原則に忠実に”という科学志向の中で技術を追求しただけで、この時から“ナガセの常識は業界の非常識なのだ”と認識するようになりました」と語る。この時期に振動制御・除去技術、温度制御技術、高速運動制御技術などにも磨きをかけ、これらコア技術が後にナノマシンへと結実する源となった。

1990年のバブル崩壊時にも開発の手を緩めず、2000年には創業以来最高の売上を上げたが、「この時期は一般に“失われた10年”といわれていますが、当社にとっては蓄積された10年ということができます」と、長瀬社長は振り返る。

#### 「ものづくり大賞」と「天体望遠鏡」

このような着実な技術開発の実績にも関わらず、同社の「知名度」が上がってきたのは、実はかなり後のことになる。「当社が注目を集め、マスコミに取り上げられるようになったのは、2007年に第2回ものづくり日本大賞・内閣総理大臣賞を受賞した時からだと思います」という。この賞は「任意曲面の鏡を研削加工のみで高速に仕上げる超精密工作機械の開発と実用化」が評価されたものだが、この技術はのちにハワイのすばる望遠鏡にも役立つことになる。「それまで多くの超精密、超々精密機械を開発してきましたが、お客様企業の企業秘密に属することがほとんどで、他社へのPRもできず当社の技術力は封印されがちでした。しかし、お客様との信頼関係こそが当社の最も重要ないき道であると考えていました」という。しかし、ものづくり大賞受賞の技術や、天体望遠鏡のような社会的プロジェクトの技術については堂々と語るができる。「天文台の大型望遠鏡に使われる集光レンズの鏡面加工は、従来は砥粒で磨くラッピングという加工法が用いられていましたが、これでは1年もかかる場合があります。超高精度な位置制御を行いながら砥石で削る研削盤を当社が開発したことで、複雑な非曲面レンズの超高精度の研削加工が可能になり、レンズの製作期間は1ヵ月に短縮されました」とのことだ。2011年に完成予定の国立天文台・岡山観測所の天体望遠鏡の製作にも、同社の大型光学部品用研削盤「N2C-1300D」が役目を担う。

#### 超常識セミナーや技術情報誌で新しい概念を提案

これまで「技術一筋」の印象がある会社だが、最近はユーザーや研究機関とのコミュニケーションにも力を入れている。その1つは『NAGASE超常識セミナー』の実施と、もう1つは技術情報誌『INCREDIBLE CONCEPT』の創刊だ。

「超常識セミナー」は、2008年12月22日の同社本社工場での開催を皮切りに2009年3月まで大阪、東京、九州、仙台の5会場で開催し、さらに第2弾を今年7月から実施予定している。2008年当時は、



「超常識セミナー」

世界経済の仕組みに大きな変化が起きていた時代だったが「それまで常識と思われていたことが、あらゆる分野で否定されましたね。安泰であった企業も廃業を余儀なくされたり、反対に小規模な企業でも大きなチャンスを得る可能性も出てきた。ですから、今まで常識と思われていた精度・機能の仕事もいらなくなるかもしれない。こうした背景のもとに、大学の先生や研究機関の方々のご協力を得てセミナーを始めたものです」と長瀬社長。当初のプロ

グラムをみると、同社側からは「“CHANGE”を“CHANCE”に変える超精密技術」と題し、「技能から技術へ(暗黙値から形式値へ)」「原理原則に忠実な思考と仕事(物理学で削る)」「NAGASEの要素技術(10大要素)」などがあり、また、各大学教授からは「精密加工からナノマシニングへ」「革新ものづくりルネッサンス」など最先端技術に関する講演などがみられる。

2009年7月には同社のオリジナル技術情報誌『INCREDIBLE CONCEPT』が創刊されている。“インクレディブル・コンセプト”とは“びっくりするほど素晴らしい概念”を意味するそうだが、「古い常識にとらわれずに見方や考え方を変えること、すなわち概念を“トランス”することが大事で、ここから新しい商品を生み出すことが出来ると考えます」とのことで「この情報誌を通じて、当社の新たなる概念をご提案したいと思っています」と説明する。創刊号では「緊急レポート・この時代に元氣な金型メーカーとは？」で金型業界における最新技術情報などを報告している。第2号(2010年4月)では「特集・今、材料が面白い」では超硬素材など新素材とその加工技術について解説している。また、毎号、新技術・新機種を取り上げているほか、「ぎふ紀行」で県内各地域の歴史・風土や工房・老舗を紹介しているのも楽しい。長瀬社長自身も、企業理念や最新技術について執筆することも多いという。

#### 創業60周年を迎え「第3の創業」へ

“失われた10年”の時期にも前進を続けるなど、これまで順調に発展してきた同社だが、ここへきて長瀬社長は危機感を募らせている。「1990年代後半から完全受注生産に移行していましたが、あのリーマン・ショックには耐えることが出来ましたが、逆に、今年8月からの来期決算は苦しくなると思います。というのは、受注から納入まで5ヵ月から20ヵ月という長いスパンがあるので、昨年の受注減の影響が出るこれからが大変なのです。そこで、こうした事態を打開していくためにも、ちょうど創業60周年を迎えた2010年を“第3の創業”の年とし、新たなスタートの年にしました」と決意を述べる。

「当社には“出会いを尊び、今日を生きる”という創業者精神と、“お客様のご満足こそ私たちの進むべき唯一の道”という経営理念NAGASE WAYがありますが、これを実践していくために次のことをもう一度考えていきたい」としている。それは「新たなる概念(Trans-Concept)の提案」「新たなる価値(Optimum Value)の実証」「新たなる市場(New Market)の創造」だという。「これまでも基本的に忠実に、しかし常識にとらわれずに技術開発してきましたが、これからは以前にも増して“新しい概念”のもとの技術や製品の提案が重要になると思います。そこから生まれる価値が実証されることで、新しい市場が形成されるものと思います」と強調し、「お客様が必要とするものにたどり着きたい。これを第3の創業の精神にしたいと考えます」と結んだ。



川の向こう側に見えるのが本社工場

# 工作機械と私



浜松貿易(株)  
第二営業部係長  
丸 崇 仁

浜松貿易に入社して、早11年が過ぎました。

先日会社より勤続10年の表彰を頂き、いろいろな事があつたと改めてこれまでの事を振り返っていましたが、その中でこの仕事を続けてこられたきっかけになつた事を経験を通してお話したいと思います。

入社当時、早くお客様から受注を頂き、一人前になりたいと希望に燃えていましたが、簡単にいくわけもなく、ただ空回りするだけでした。その為なかなか仕事もうまくいかず、この仕事に向いていないのではないかと悩んでいました。

そんな状態で入社より2年経った頃に大手の客先へ納入したプレスと搬送装置の立ち上げを任せられました。

厳しい納期での納入だった為、プレスと搬送装置を現地ですなぎ合わせながらの立ち上げとなっており、しかも搬送装置はうまく動かず、プレスも準備不足の状態でした。

しかも客先からの催促と次から次へと出てくる改善要求もあり、どうすればいいのかわからず途方に迷いました。

設備の都合上同時工事が出来ない為、昼はプレスメーカーの立ち上げの立ち会いと客先との交渉、その後夜中まで搬送装置の改修をする日々が続きました。搬送メーカーの人と、「明日はこうやってみよう」と議論しながら夜中の工場から帰ったのを思い出します。

こうした日々が1か月も続いた頃、職人気質であるプレスメーカーの責任者の方から、次々と出てきている改善要求が当初の打ち合わせ内容と違うと怒られ、言い争いになりました。

その後口もきいてもらえない様な状態が続きましたが、必死に説得を続けました。数日経った頃、プレスメーカーの責任者の方が再度必死に説得をしていた私に、「分かった。この内容をやらないと工事は完了しないんだ。兄ちゃんの事を信用して、言うことは何でも聞いてやる」と言って頂き、その時の感動は今でも忘れません。その後なんとか無事に生産にこぎつける事が出来ました。

その時の経験により「自分が必死になれば、心は通じる」と気づき、このことを胸に仕事をする事で、仕事の幅もどんどん広がってきたと思います。

工作機械の販売に携わらせて頂き11年、社長様から現場の方々まで幅広い方々と仕事をさせて頂く事で、人間的にも成長する事が出来、工作機械に育てられたと言っても過言ではないと思います。

しかしここ数年、世の中の中間流通をカットし、コストを下げる傾向が見られ、工作機械業界にも「商社不要論」が聞かれるようになりました。実際にお客様からも商社の役割を問われる事もあり、常に自問自答を繰り返しつつ、「どうしたらお客様にメリットを提供出来るか？」を念頭に仕事をする必要があると思います。特にこの不況下、お客様の大切なお金を頂くには、それなりのメリットを見い出して頂かないといけません。

これからも「自分が必死になれば、心は通じる」を信じ自己研鑽をする事で、少しでもお客様に評価されかつ現在の不況にも打ち勝つご提案が出来る様な営業マンでありたいと思います。

# 議事録から

## 中部地区 正・副会員懇談会

日 時：6月14日(月) 12:00～15:00

会 場：(株)井高 本社5階会議室

参加者：17社

議事内容の概要報告：

高田委員長から挨拶、景況報告に続き、6/9開催の日工販総会、及び創立40周年記念式典の概要報告がありました。日工販会長表彰が3名の方へ、経済産業省から製造産業局長表彰が6名の方へ授与。

また三菱商事テクノス 柴田社長の社長退任に伴う日工販会長職の辞任申し出により、後任として双日マシナリー 長久保会長が就任され、任期は残存任期の1年となる旨の報告がありました。

### (1) 22年度、中部地区行事計画と進め方についての意見交換

22年9月 懇親ゴルフ会 ・上期中は開催を見合わせ、下期に再協議とする。

22年10月 製品研修会 ・小型工作機械工業会の会員からメーカー選定を進める。

22年11月 工場見学会 ・スズキ歴史館、スズキ 相良工場を同時に17～19日で調整。

22年12月2日 講演会、忘年会 ・講師：トヨタ/(井上常務役員)

上記により折衝を進めることになりました。

23年3月 情報交換会の実施を予定。

### (2) 市場動向など意見交換

各社から現況についての報告が行われましたが、いずれも相変わらず概ね40～50%のダウンが続いており、特に機械設備に関しては更なる厳しい状況は変わらず、大半が共に赤字基調。しかし、今期に入り変化は出始めているも、なかなか受注に結び付かないといった状況。

こういった状況からニッチニーズへの特化、システム提案営業の強化、脱自動車、また海外シフトを強化するなど当面の生き残りを模索している厳しい状況が報告されました。

また社員の若返りに依って既成概念に捉われない展開が意外に効果を発揮している例も報告されました。

加藤副委員長から、更にこれからも世界に発信出来る国となること、そして今年、名古屋で開催のCOP10をも充分意識して、これらに関わる問題に対して私たちも頭を使い、取り組みましょう！と締めくくられ、閉会しました。

## 平成22年度 SE講座・更新研修講師打ち合わせ会

日 時：6月11日(金)15:30～16:30

場 所：機械工具会館 5階会議室

講師出席者：SE講座講師5名、更新研修講師3名、事務局3名

宇佐美専務理事より、日工販創立40周年記念式典では教育事業活動に貢献のあった前委員長が経済産業省製造産業局長表彰を授与され、日工販SE教育について経済産業省も関心を持たれているとの報告があった。

出席された講師各位の自己紹介の後、議事に入る。

議 題：

### 1) 22年度講座集合教育日程・開催場所の報告

SE講座：10月 7日～ 9日（名古屋）	I.M.Y.
10月14日～16日（東京）	機械工具会館
10月21日～23日（大阪）	新梅田研修センター
更新研修：11月12日～13日（東京）	機械工具会館
11月19日～20日（名古屋）	I.M.Y.

### 2) 21年度SE講座・更新研修総括及びテスト結果

SE資格はSE資格取得後5年以内に更新研修を受講しないと失効するが、一昨年までの更新研修の履修方法は必修講座とSE講座の受講及び通信教育の組み合わせであった。21年度より必修講座と特別講座の履修により資格継続が可能になり、通信講座が未修となっている受講者については、特別講座を受ける事で資格取得が出来るよう救済することにした。

テスト結果は、講座ごとにバラツキがあるが平均点は高いレベルであった。

### 3) 21年度講座アンケート報告

各講座のアンケート結果は直接講師宛送付済。受講者の能力・理解度からコメントは違うが、そのまま伝えている。受講者から要望のあった新分野等については講義の中に盛り込んでいただくこととした。

### 4) 22年度SE講座・更新研修募集要項内容について

カリキュラムの変更について、日程・場所等の確認を行なった。

### 5) 22年度テキスト・テスト問題について

テキスト・テスト問題改訂の有無、講師宿泊手配などを確認。

### 6) 22年度基礎講座受講予定者

昨年の厳しい経済状況の影響を受け新入社員も少なく受講予定者は40名となり、6月24日(木)～26(土)の1回のみ開催となる。

## 平成22年 SE教育基礎講座実施報告

第18期基礎講座は例年通り営業経験3年未満の方々を対象にして日本工業大学で開催されました。昨年の厳しい経済環境の影響を受けて、新人の大幅減が予測され基礎講座の成立が危惧されましたが、39名の受講生を得て予定通り開催されました。ご協力に心よりお礼申し上げます。

受講生におかれましてはここで得られた成果を今後の営業に生かされますよう祈念いたします。

開催日：6月24日(木)~26日(土) 受講生39名

会場：日本工業大学内学友会館 工業技術博物館、機械工作センター、機械実習教室

カリキュラム：

第1日：工作機械の概要、業界の現状を受講後、工業技術博物館で動態展示工作機械類等を見学。その後機械工作センターで現在のNC旋盤、マシニングセンタ、放電加工機、レーザ加工機、5軸複合加工機等を見学。更に立形マシニングセンタによる加工実演を見学。

第2日：午前中、工作機械の要素、切削理論、加工物材料を受講。午後は実習講師のもと、旋盤、フライス盤、ボール盤、測定、キサゲ・ヤスリ仕上げ作業の5工程を実習。

第3日：午前中はプレス加工とプレス機械の基礎を受講。午後は生産財設備販売担当の心得と仕事。引き続き機械納入・据付時安全管理及び納入検収作業心得を受講。

(第2日、第3日の午後の講義、実習は2グループに分かれ交互に実施。)

日本工業大学のご協力を得て実機による実習を体験され、工作機械の理解と親しみをかなり深められたと思います。受講生各位には会社へ戻られて今後それぞれの分野で活躍されますとともに近い将来日工販SE資格の取得に挑戦されることを切に希望いたします。

当講座の開催にあたり、多大なご協力をいただいた日本工業大学工業技術博物館館長の松野教授をはじめご指導をしてくださいました講師の皆様様に紙面を借り心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

## 日工販SE合格者 第175回発表

今回は6月の合格者4名です。

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
10-18-2439	(株)東陽	岩月 健	10-19-2441	西川産業(株)	鈴木 健太
10-19-2440	サンコー商事(株)	伊藤 優佑	10-19-2442	(株)アマダシンツール	池谷 俊之

## 日工販更新研修合格者 第117回発表

今回は6月の合格者1名です。

認定No.	会社名	合格者名
10-7R-0948	(株)東陽	太田 春紀

統

計

資

料

工作機械・F A 流通動態調査 1

統計1

単位百万円

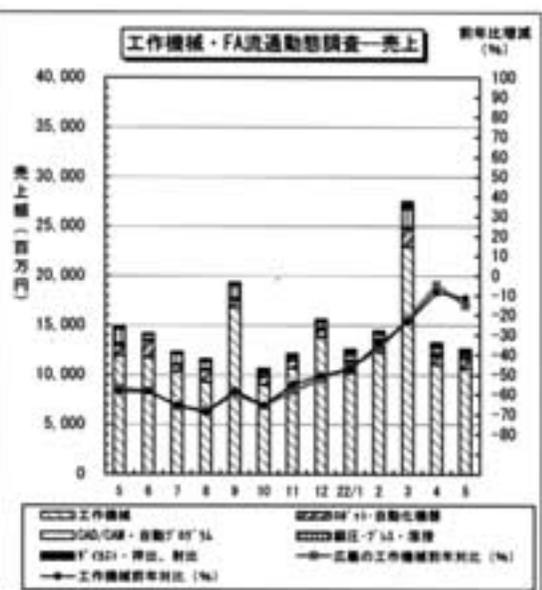
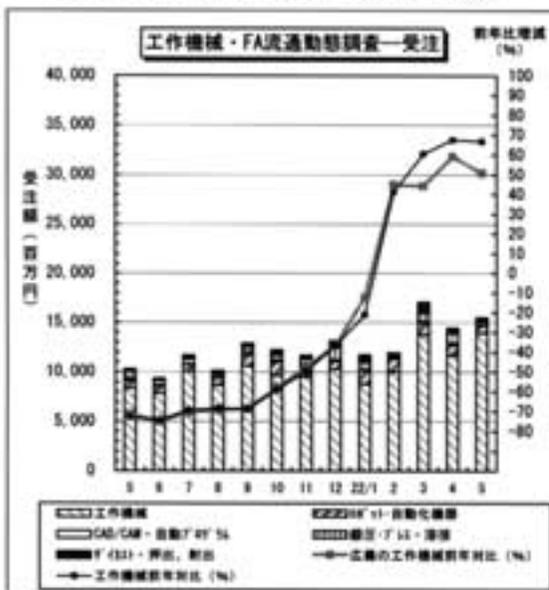
調査月次	受 注					売 上				
	22/5	前月比	前年比	22/1-22/5	前年比	22/5	前月比	前年比	22/1-22/5	前年比
39社合計	13,920	19.2%	66.8%	58,138	38.2%	10,636	-3.5%	-11.1%	67,001	-26.9%
工業の工作機械	727	-30.6%	-4.3%	5,681	11.6%	972	12.6%	-2.8%	6,049	-20.6%
CAD/CAM・自動プログラム	112	-23.3%	-47.9%	635	12.6%	106	-59.6%	-42.8%	764	13.6%
鍛圧・プレス・溶接	359	-65.2%	-51.2%	3,092	-19.9%	363	-40.4%	-74.7%	3,917	-54.8%
ダイカスト・押出、射出	394	-26.8%	75.1%	3,203	156.9%	531	13.5%	91.0%	2,698	58.9%
小計	15,512	7.4%	50.9%	70,749	33.9%	12,608	-4.7%	-15.2%	60,428	-27.1%
工作機械以外の扱い商品	8,011	-16.3%	51.1%	43,877	23.0%	7,248	4.4%	27.2%	42,020	-1.7%
合計	23,522	-2.0%	51.0%	114,626	29.5%	19,856	-1.5%	-3.4%	122,448	-20.0%
従業員数	1,312	-1.1%	-3.1%							

統計2

単位百万円

調査月次	受 注					売 上				
	22/5	前月比	前年比	22/1-22/5	前年比	22/5	前月比	前年比	22/1-22/5	前年比
30社合計	9,289	-4.6%	69.7%	48,183	28.0%	8,171	2.6%	-5.9%	47,374	-30.3%
内訳										
直販 (内リース)	798	2.5%	116.8%	3,305	24.5%	610	-9.5%	15.3%	3,415	-35.0%
卸	3,952	1.4%	83.6%	17,859	108.7%	3,035	-31.2%	-7.8%	20,434	-13.3%
輸入	-6	-102.2%	-100.9%	426	-86.7%	56	64.7%	-68.4%	3,056	35.5%
輸出 (内内陸輸出)	3,294	8.6%	162.9%	14,528	142.7%	2,568	-7.8%	73.2%	13,606	-12.9%
従業員数	981	-1.3%	-0.7%							

注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。  
 会員70社中統計1に関しては39社、統計2に関しては30社の回答を得て集計したものである。  
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。  
 参考までに今月のデータ提供会社総数は43社である。



## 工作機械業種別受注額(2010年5月)

6月16日発表

(単位:百万円、%)

需要業種	期間	2009年 累計	前年比	2009年 10~12月 累計	2010年 1~3月 累計	前期比	前年 同期比	2010年 1~5月 累計	前年同期比	5月分	前月比	前年同月比
機械 製造業	1. 鉄鋼・非鉄金属	4,054	31.2	1,362	1,116	81.9	243.1	2,112	267.0	524	111.0	154.6
	2. 金属製品	6,555	34.1	2,190	2,055	93.8	146.4	3,940	171.0	1,164	161.4	291.0
	3. 一般機械	68,911	27.7	18,425	20,960	113.8	161.8	40,790	179.6	10,165	105.2	195.5
	(内金型)	11,628	29.8	2,955	3,455	116.9	181.2	6,059	144.9	1,515	139.1	162.9
	4. 自動車	33,862	21.0	10,939	16,354	149.5	564.9	33,780	374.1	11,489	193.5	357.5
	(内自動車部品)	16,974	20.7	7,382	11,319	153.3	2455.3	20,272	965.3	4,780	114.5	389.9
	5. 電気機械	12,488	37.8	3,574	3,135	87.7	143.8	6,139	159.0	1,365	83.3	105.8
	6. 精密機械	7,666	31.0	2,661	4,127	155.1	315.8	7,899	340.8	2,256	148.8	652.0
	5~6. 電気・精密計	20,154	34.9	6,235	7,262	116.5	208.3	14,038	227.2	3,621	114.8	221.3
	7. 航空機・造船・海洋機械	11,183	36.3	2,905	1,937	66.7	134.7	3,323	77.7	416	42.9	64.3
	3~7. 小計	134,110	26.9	38,504	46,513	120.8	223.9	91,931	217.8	25,691	130.2	240.2
	8. その他製造業	5,207	24.7	1,812	2,736	151.0	442.0	4,230	251.9	708	90.1	167.4
	9. 官公庁・学校	4,698	213.6	3,413	715	20.9	123.5	801	115.9	9	11.7	19.1
10. その他需要部門	3,471	43.5	1,126	1,057	93.9	109.3	1,802	131.7	425	132.8	165.4	
11. 商社・代理店	1,553	31.3	276	395	143.1	93.4	637	91.1	145	149.5	90.6	
1~11. 内需合計	159,648	28.2	48,683	54,587	112.1	216.4	105,453	212.0	28,666	129.1	232.6	
12. 外需	252,161	34.3	105,805	141,146	133.4	401.3	251,728	397.0	51,957	88.6	340.9	
1~12. 受注累計	411,809	31.6	154,488	195,733	126.7	324.1	357,181	315.7	80,623	99.8	292.5	
(内N C機)	392,559	31.3	147,113	186,790	127.0	329.3	341,539	319.1	76,958	98.9	292.3	
販売額	596,920	40.6	125,707	187,685	149.3	82.3	303,105	98.9	58,879	104.1	149.8	
(内N C機)	576,381	40.6	121,340	178,369	147.0	81.0	289,259	97.6	56,234	102.9	147.5	
受注残高	382,592	66.6	382,592	391,021	102.2	96.1	436,922	116.5	436,922	105.1	116.5	
(内N C機)	354,272	65.0	354,272	363,029	102.5	95.5	406,738	116.4	406,738	105.2	116.4	

(注) その他製造業 …… 楽器、皮革製品等の製造業

出所 (社)日本工作機械工業会



# リレー随筆



ユアサ商事(株)  
北関東工業機械部宇都宮駐在  
脇田 祥吾

W杯ベスト16おめでとうございます。現在南アフリカでW杯が始まっております。時間帯も遅く、どうしても観たい試合は3時頃起きて観戦しています。日本は本田選手、遠藤選手、個人的には阿部選手のスペースを埋めるプレーもあり、大躍進のベスト16です。来週のパラグアイ戦を終えるまではこの生活が続きます。この原稿が掲載される頃は、W杯も終わり、夏の甲子園などが取り上げられている頃と思います。

こうしてスポーツイベントは年間を通して繰り返し行われております。スポーツ好き、スポーツ観戦好きの私としてはこのようなイベントは大歓迎であります。日々の生活にメリハリを与えてくれますし、仕事で疲れた精神状態をリフレッシュさせてくれます。そして季節の流れや、日々忙しく時間が流れるスピード感を私はスポーツを通し実感したりしております。

社会人として現在の会社に入社して感じるのは、時間の経っていくスピードが本当に速と感じます。あっという間に入社して4年目となり、夏の甲子園も4回目となり、巨人も入社以来リーグ3連覇ときております。

仕事においても、今までのように「分かりません。明日までに調べます。」ではなく、これまで得た知識と経験から多少の提案をできるようにになりたいものです。最近3年経ち、多少の商品知識はあるのか、社会人としてのマナー・常識は身につけているのか、とたまに考えます。今も原稿を書きながら、自問自答し自分自身を見つめ直しております。

そんな20代の社会人生活も残すこと3年半を切り、入社前に考えていた「20代は多くの人と出会い学ぶ」という事を再度自分に問いかけてみようと思います。学生時代は日本全国を車で旅をしたり、海外ではバックパッカーのような事もしていました。日本国内の旅は、地元愛知県から仲間と車に乗り込みとにかく旅をしていました。北は北海道稚内市宗谷岬、南は鹿児島県指宿市まで全て車で行きました。海外では台湾を1週した時には、日本人を好意にしてくれる台湾の方に一般バスの中で出会い、1日観光に連れて行って頂き、最後はご自身の会社を見学させてくれました。今思うと、プリント基盤を細く切断しているような会社だと思えます。とにかく学生時代は大学の勉強以外で、色々な場所で多くの人と出会い、素直に話を聞き、学ばせて頂きました。

幸運にも現在の仕事では色々な立場の方々と仕事をさせて頂いています。そんな皆様との会話の中の小さな出来事からも学べるような心を持ち、その中での本質を理解した行動や、対応をしていきたいと思えます。経営者の方、従業員の方、メーカーの方、商社の方、年上の方や年下の方とそれぞれの立場、考え方や人生のバックグラウンドを感じ、そして感銘を受けながら私自身も成長したいと思えます。

20代は何事にも好奇心を持ち、発言する事を怖がらない、そして素直に貪欲に。これで乗り切りたいと思えます。今後も皆様方のご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

今回の「リレー随筆」は、サンワ産業株式会社 名古屋支店の石井正樹様にパトンプスをしております。石井さん何卒宜しくお願いします。(発行責任者注記：今月号の「リレー随筆」は6月24日にご寄稿頂きました。)



# 営業マン日記



## 筆者紹介

今月号より賛助会員会社の「さかい三十郎」氏執筆のコラムを隔月で掲載します。

さかい三十郎氏曰く『有明海に程近い城下町(福岡県柳川市)の団子屋の次男坊として産湯をつかい、親父の名は房次郎、祖父の名は初次郎、寅年に生まれたなら間違いなく団子屋の寅次郎と名付けられたはず。庶民派・熱血感・正義感溢れる会社員。長崎造船所で機関室設計を担当した後、プラント建設工事や工作機械の営業第一線で販売促進業務の陣頭指揮を執っている。商品カタログ作成・展示会運営・セミナー開催など活動域は広い。プライベートでは少年野球チームの指導を行うほかに、大好きな映画鑑賞で時を過ごす。2000年に建てた小さな注文住宅には映画ホームライブラリーがあり約1,800本のDVDや約5,000冊のパンフレットが愛蔵されている。』

氏は日刊工業新聞社(技術雑誌・型技術)と日本物流新聞で2本のコラムを持ち好評連載中。

## 新商品トラック・キャラバンの巻

さかい三十郎

「機能限定・廉価で販売台数と荒利を稼ぐ」として新商品市場投入したマシンニングセンタの販売促進活動の巻です。

新商品本体(重量約4トン)を大型トラック(10トン)に乗せ、全国の販売代理店・ユーザー殿工場を巡回することになった。製作工場で出陣式が行なわれ、始めに巡訪したのは静岡県東部地区。テリトリ責任者の営業所長と二人で初のイベントをこなす羽目に。初物を処理するのは三十郎の得意とするところでもあり、プラス思考で走りながら考えることにした。



静岡駅前で大形トラックと待ち合わせし販売代理店の駐車場に向かい(登呂遺跡の近く)戸惑い・恥ずかしさを感じながらも来訪者受け入れ準備を始める。荷台に乗車してもらう安全梯子の取り付け、社名と商品名を記載した派手な幟(黄色バックに黒文字のタイガース仕様)でトラック周囲を囲み、機械稼働用の発電機・圧縮空気を立ち上げる。

初日を無事終え、その夜は小さな憩いの時間を過ごした。翌日以降トラブル対応に奔走する羽目に陥るとは知らずに。

翌朝「七人の侍」のラストシーンのような大雨の中を車中移動する。国道一号線から横道に入るルートに差し掛かり、新米運ちゃんはハンドル操作を始めたが一度で曲がりきれない。三十郎は周囲の状況に唖然としながらも事態を直ぐに飲み込み、助手席から飛び出し主人公の勤兵衛の如く雨中を走り、天下の国道一号線を遮断した。瞬間に車列が渋滞する。平身低頭目配せ深謝しトラックを横道に進入させた。

こんな日に限ってトラブルが続出する。工場サイドが手配していたレンタル品類が三十郎に反抗し始める。まるで映画「2001年宇宙の旅」のコンピュータのように。

発電機トラブル(フル給油で丸2日間稼働できるとしていたが、燃費が悪いのか翌日早々にガス欠)  
圧縮空気機トラブル(元栓ホースカップリング破損)

代理店駐車場へ通じる道路が狭隘で通行不可

実演中の雨対策(人も機械も)などなど

こんな営業形態の中で、寅さんの啖呵売の名台詞を作り替え呟いた。

“さあて、いいかねお客さん！一流專業メーカーM社・T社・O社さんの舶来のスーツを着用した営業マンから下さい頂戴でいただきますと1千が2千、3千が4千万円する品物だが、今日はこれだけ下さいとは言わないヨ！ いいかいハイ、ならんだ数字が先ず一つ、物の始まりが産業革命のウィルキンソンの中ぐり盤なら、国内の産業機械の原点は三菱長崎造船所。国の始まりが大和の国、島の始まりが淡路島、泥棒の始まりは石川五右衛門…。どうです、見ていただきましょう。先ほど説明したとおりの機能と使い易さでこの価格。たったの1千万円。私が知っているフライス盤メーカーも泣きの涙で手を上げる価格だ。しかも輸送・荷降ろし・横引き・操作指導も含めての価格。エ～イ、持っていけ！”口八丁・手八丁はイベント司会などでお手の物だが、このキャラバンだけは冷汗ものだった。こんなことなら自動車販売営業マンの歩合制給料に転職しようかと思ったことも。



(イラスト：USAMI)

## 会員消息

代表者変更 ..... 東部地区正会員 (株)兼松 K G K 取締役社長 千葉靖雄  
..... 東部地区正会員 (株)国興 取締役社長 高知尾敏之  
..... 東部地区正会員 三菱商事テクノス(株) 取締役社長 上田良樹  
..... メーカー賛助会員 (株)ジェイテクト 取締役社長 井川正治  
..... メーカー賛助会員 三菱電機(株) 取締役社長 山西健一郎  
..... リース賛助会員 東銀リース(株) 取締役社長 佐野三郎  
..... リース賛助会員 J A三井リース(株) 取締役社長 安田義則

住所変更 ..... メーカー賛助会員 メルダスシステムエンジニアリング(株)  
〒461-0004 名古屋市東区葵1-19-30  
TEL 052-979-5311 FAX 052-979-5325

会員代表変更 ..... メーカー賛助会員 (株)ミヤノ 国内営業部部長 窪田 守  
..... リース賛助会員 首都圏リース(株) 機械設備営業部部長 清田浩一  
..... リース賛助会員 日本機械リース販売(株) 工作機械営業部リーダー 岩崎謙一

## 行事予定

東部地区情報交換会 .....	7月21日(水)	機械工具会館
政策委員会・定例理事会 .....	9月8日(水)	大阪産業創造館
SE講座(名古屋) .....	10月7~9日(木~土)	I.M.Yビル
SE講座(東京) .....	10月14~16日(木~土)	機械工具会館
SE講座(大阪) .....	10月21~23日(木~土)	新梅田研修センター
更新研修、必修・特別講座(東京) .....	11月12・13日(金・土)	機械工具会館
更新研修、必修・特別講座(名古屋) .....	11月19・20日(金・土)	I.M.Yビル
展示会		
難加工技術展2010 .....	7月7日(水)~7月9日(金)	東京ビッグサイト
ROBOTECH 次世代ロボット製造技術展 ...	7月28日(水)~7月30日(金)	東京ビッグサイト
第21回マイクロマシン/MEMS展 .....	7月28日(水)~7月30日(金)	東京ビッグサイト
第15回マシンツールフェアOTA2010 .....	9月8(水)~9月10日(金)	大田区産業プラザ
IMTS(International Manufacturing Technology Show)		
.....	9月13日(月)~9月18日(土)	McCormick Place, Chicago
JIMTOF2010 第25回日本国際工作機械見本市		
.....	10月28日(木)~11月2日(火)	東京ビッグサイト
Metalworking and CNC Machine Tool Show 2010		
.....	11月9日(火)~11月13日(日)	上海新国際展覧センター

## 編集後記

7月号をお届けします。6月9日開催の日工販創立40周年記念式典も無事終了し、今月号は通常総会と記念式典のご報告です。通常総会において柴田前会長より長久保新会長にバトンタッチされました。

日工販は今年の10月28日で満40歳の誕生日となりますが、40歳と言えばまず論語の孔子の言葉「不惑、即ち40にして惑わず」を思い浮かべられる方が多いと思いますが、これは「40歳になったら物の考え方には迷いはなくなった」ということだそうです。それではその前の30歳はというと「30にして立ち」となり、これは「学問などの基礎がきちっと出来て一人立ちができるようになった」ということだそうです。日工販の歩みも孔子の言葉に重ね合わせて考えてみると含蓄のある言葉ではないかと思えます。それならば50歳はどうかと言うと「50にして天命を知る、即ち天が自分自身に与えた使命を自覚する」となります。一方40歳についてもう一つ、アメリカ第16代大統領エイブラハム・リンカーンが言った言葉に「40歳になったら自分の顔に責任を持たなくてはいけない」とあります。この二つの40歳についての言葉から示唆されている如く、日工販は諸先輩のおかげで業界では確たる地位を築き責任ある立場となってきました。創立40周年を機に改めて目的意識をしっかりと持って会員のため業界のため、そして社会のために50周年に向けて活動していかなければならないのではないかと思います。

今月号より隔月で流通新聞、日刊工業新聞社の雑誌にコラムを好評連載中の賛助会員会社のさかい三十郎さん(筆名)からご寄稿頂く「営業マン日記」を掲載します。肩に力をいれずに読んでいただこうと思います。

5月の日工会受注確報は、4月に引き続き800億円台を維持し806億円となりましたが、注目すべきは内需が287億円と300億円台に迫る結果で今後の伸びを期待したいと思います。

「日工販ニュース」 Vol.22 - No.07

平成22年7月15日発行

発行 日本工作機械販売協会  
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階  
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879

発行責任者 専務理事 宇佐美 浩  
編集 日工販調査広報委員会  
委員長 田尻 哲男

# 日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成22年7月1日現在

## 正会員(全70社)

### [ 東部地区(34社) ]

(株) 旭 商 工 社  
 伊藤忠マシンテクノス(株)  
 今井機械工業(株)  
 大石機械(株)  
 (株) カ ナ デ ン  
 (株)カネコ・コーポレーション  
 (株) 兼 松 K G K  
 (株) 京 二  
 (株) 共 和 工 機  
 群馬工機(株)  
 (株) 国 興  
 (株) 三 機 商 会  
 三洋マシン(株)  
 サンワ産業(株)  
 シマモト技研(株)  
 住友商事マシネックス(株)  
 (株) セイロジャパン  
 誠和エンジニアリング(株)  
 双日マシナリー(株)  
 太平興業(株)  
 帝通エンジニアリング(株)  
 (株) テ ヅ カ  
 (株) T E M C O  
 (株) ト ミ タ  
 (株) N a I T O  
 (株) ナチ常盤  
 日鋼商事(株)  
 藤田総合機器(株)  
 丸紅トッキ・インダストリーズ(株)  
 三井物産マシンテック(株)  
 三菱商事テクノス(株)  
 (株) ヤ マ モ リ  
 ユアサ商事(株)  
 米沢工機(株)

### [ 中部地区(20社) ]

石原商事(株)  
 (株) 井 高  
 岡谷機販(株)  
 カト一機械(株)  
 釜屋(株)  
 岐阜機械商事(株)  
 甲信商事(株)  
 三栄商事(株)  
 三機商事(株)  
 サンコー商事(株)  
 三立興産(株)  
 下野機械(株)

(株) 大 成  
 (株) 大 誠  
 (株) 東 陽  
 (株) 日 本 精 機 商 会  
 浜松貿易(株)  
 (株) 不 二  
 山下機械(株)  
 ワシノ商事(株)

### [ 西部地区(16社) ]

赤澤機械(株)  
 伊吹産業(株)  
 植田機械(株)  
 (株) お じ ま  
 関西機械(株)  
 京華産業(株)  
 五誠機械産業(株)  
 桜井機械(株)  
 (株) ジ ー ネ ッ ト  
 大幸産業(株)  
 (株) 立花エレテック  
 西川産業(株)  
 日本産商(株)  
 マルカキカイ(株)  
 宮脇機械プラント(株)  
 (株) 山 善

## 賛助会員(全68社)

### [ 製造業(52社) ]

(株) アマダマシンツール  
 (株) エ グ ロ  
 エヌティーツール(株)  
 (株)MSTコーポレーション  
 エンシュウ(株)  
 オーエスジー(株)  
 オークマ(株)  
 大阪機工(株)  
 (株)岡本工作機械製作所  
 (株)神崎高級工機製作所  
 (株)北川鉄工所  
 キタムラ機械(株)  
 キヤムタス(株)  
 黒田精工(株)  
 コマツNTC(株)  
 (株)C & Gシステムズ  
 (株)ジェイテクト  
 (株)シギヤ精機製作所  
 新日本工機(株)  
 住友電工ハードメタル(株)  
 (株)ソディック

大昭和精機(株)  
 (株)太 陽 工 機  
 高松機械工業(株)  
 (株)滝澤鉄工所  
 (株)ツ ガ ミ  
 津田駒工業(株)  
 (株)東京精密  
 東芝機械マシナリー(株)  
 東洋精機工業(株)  
 (株)ナガセインテグレックス  
 中村留精密工業(株)  
 (株)日研工作所  
 浜井産業(株)  
 日立ツール(株)  
 ファナック(株)  
 富士機械製造(株)  
 ブラザー工業(株)  
 豊和工業(株)  
 牧野フライス精機(株)  
 (株)牧野フライス製作所  
 (株)松浦機械製作所  
 三井精機工業(株)  
 (株)ミ ツ ト ヨ  
 三菱重工業(株)  
 三菱電機(株)  
 三菱マテリアルツールズ(株)  
 (株)ミ ヤ ノ  
 メルダシステムエンジニアリング(株)  
 (株)森精機製作所  
 安田工業(株)  
 ヤマザキマザック(株)

### [ リース業(16社) ]

N T T ファイナンス(株)  
 共友リース(株)  
 近畿総合リース(株)  
 興銀リース(株)  
 首都圏リース(株)  
 昭和リース(株)  
 J A 三井リース(株)  
 住信・パナソニックフィナンシャルサービス(株)  
 東銀リース(株)  
 東芝ファイナンス(株)  
 日本機械リース販売(株)  
 日 本 G E  
 日立キャピタル(株)  
 三井住友ファイナンス&リース(株)  
 三菱電機クレジット(株)  
 三菱UFJリース(株)